

燃料デブリ取り出し準備 スケジュール

計画名	内容	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月以降			備考								
				11	18	25	2	9	16	23	30	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20									
●初号機の燃料デブリ取り出しの開始 ●取り出し規模の更なる拡大(1/3号機) ●段階的な取り出し規模の拡大(2号機)	原子炉建屋内の環境改善	原子炉建屋内の環境改善	1号機 (実績) ○建屋内環境改善(継続) (予定) ○建屋内環境改善(継続)																															建屋内環境改善 ・2階線量調査の準備作業のうち3階床面穿孔 20/7/20~8/31 R/F2階の線量調査に向けた準備作業のうち、3階南側エリアの床面穿孔を実施。 ・2階線量調査・準備作業・調査 20/9/2~9/9、 20/10/7~10/9 ・2階線量調査の準備作業のうち3階床面穿孔 21/3/12~4/9、6月~8月予定		
			2号機 (実績)なし (予定)なし																																	
			3号機 (実績) ○建屋内環境改善(継続) (予定) ○建屋内環境改善(継続)																															建屋内環境改善 ・線量調査 20/2/19~5/22 原子炉建屋1階の線量調査・線源調査の実施。 ・準備作業 20/11/17~20/12/13 北西エリア機器撤去 20/12/14~21/3/22 R/F1階北西エリアの線源となっている制御盤地の撤去。 ・北西エリア機器撤去および除染 20/7月~21/12月予定		
	格納容器内水循環システムの構築	格納容器内水循環システムの構築	1号機 (実績)なし (予定)なし																																	
			2号機 (実績)なし (予定)なし																																	
			3号機 (実績)なし (予定) ○原子炉格納容器水位低下(新規)																															3号機原子炉格納容器内取水設備設置に係る実施計画変更申請(21/2/1)		
	燃料デブリの取り出し	燃料デブリの取り出し	共通	(実績) ○【研究開発】格納容器内部詳細調査技術の開発(継続) ○【研究開発】圧力容器内部調査技術の開発(継続) ○燃料デブリ取出設備 概念検討(継続) (予定) ○【研究開発】格納容器内部詳細調査技術の開発(継続) ○【研究開発】圧力容器内部調査技術の開発(継続) ○燃料デブリ取出設備 概念検討(継続)																															【研究開発】PCV内部詳細調査技術の開発 PCVベスタル内(CRD下部、プラットフォーム上、ベスタル地下階)調査技術の開発 PCVベスタル外(ベスタル地下階、作業員アクセス口)調査技術の開発 【研究開発】RPV内部調査技術の開発 穴あけ技術・調査技術の開発 試験的取り出し技術の開発 燃料デブリ取出設備 概念検討	(継続実施) (継続実施) (継続実施) (継続実施) (継続実施)
			1号機	(実績) ○原子炉格納容器内部調査(継続) (予定) ○原子炉格納容器内部調査(継続) ○1/2号機SGTS配管撤去(新規)																															OPCV内部調査 PCV内部調査に係る実施計画変更申請(18/7/25) →補正申請(19/1/18) →認可(19/3/1) 【主要工程】 ・PCV内部調査装置投入に向けた作業19/4/8~ O1/2号機SGTS配管撤去 1/2号機SGTS配管撤去(その1)に係る実施計画変更申請(21/3/12)	(2021年4月末に実施の干渉物調査により完了時期を検討) (2021年11月完了予定)
			2号機	(実績) ○原子炉格納容器内部調査(継続) (予定) ○原子炉格納容器内部調査(継続)																															PCV内部調査に係る実施計画変更申請(18/7/25) →補正申請(20/9/9) →認可(21/2/4)	(2022年内完了予定) ・1号機PCV内作業時のダスト飛散現象を踏まえて、2号機においてもダスト低減対策を検討中。2号機PCV内部調査は2022年内開始を目指す試験的取り出しと合わせて実施すること検討中。 ・PCV内部調査装置投入に向けた作業20/10/20~ ・X-6ペネ内堆積物調査(接触調査):20/10/28、3Dスキャン調査:20/10/30 ・常設監視器撤去し20/11/10~
			3号機	(実績) ○3号機南側地上ガレキ撤去(継続) (予定) ○3号機南側地上ガレキ撤去(継続)																															3号機南側地上ガレキ撤去	(2022年3月完了予定)
			共通	(実績) ○原子炉格納容器内部調査(継続) (予定) ○原子炉格納容器内部調査(継続)																															3号機南側地上ガレキ撤去	(2022年3月完了予定)

燃料デブリ取り出し準備 スケジュール

項目名	計画工程	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月以降			備考	
				11	18	25	2	9	16	23	30	7	14	21	28	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14		21
燃料デブリ取り出し準備	R/V/PCV健全性維持	圧力容器/格納容器の健全性維持	(実 績) ○腐食抑制対策 ・窒素バブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減実施 (継続)																									
			(予 定) ○腐食抑制対策 ・窒素バブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減実施 (継続)																									
	炉心状況把握	炉心状況把握	(実 績) ○事故関連factデータベースの更新 (継続) ○炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新 (継続)																									
			(予 定) ○事故関連factデータベースの更新 (継続) ○炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新 (継続)																									
●燃料デブリの処理・処分方法の決定に向けた取り組み	取出後の燃料デブリ処分予定保管	燃料デブリ性状把握	(実 績) ○【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等 (継続) ・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発(生成挙動) (継続)																									
			(予 定) ○【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等 (継続) ・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発(生成挙動) (継続)																									
●段階的な取り出し規模の拡大(2号機)	燃料デブリ臨界管理技術の開発	燃料デブリ臨界管理技術の開発	(実 績) ○【研究開発】臨界管理方法の確立に関する技術開発 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発 (継続) ・臨界防止技術の開発 (継続)																									
			(予 定) ○【研究開発】臨界管理方法の確立に関する技術開発 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発 (継続) ・臨界防止技術の開発 (継続)																									
	燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	(実 績) ○【研究開発】燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発 粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (継続) 燃料デブリ乾燥技術/システムの開発 (継続)																									
			(予 定) ○【研究開発】燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発 粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (継続) 燃料デブリ乾燥技術/システムの開発 (継続)																									

1号機 PCV内部調査にかかる 干渉物切断作業の状況

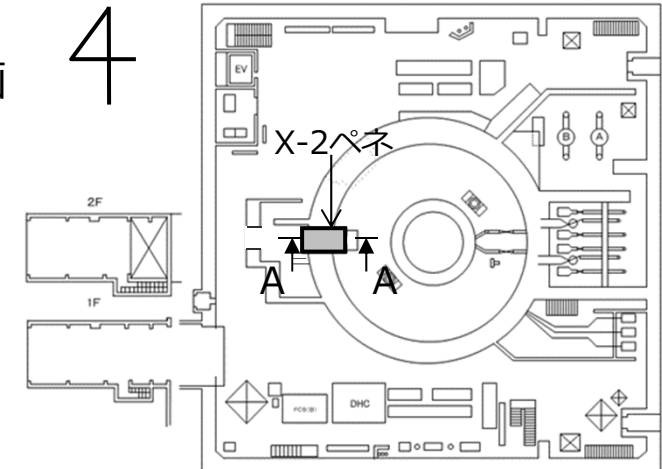
2021年5月27日

IRID **TEPCO**

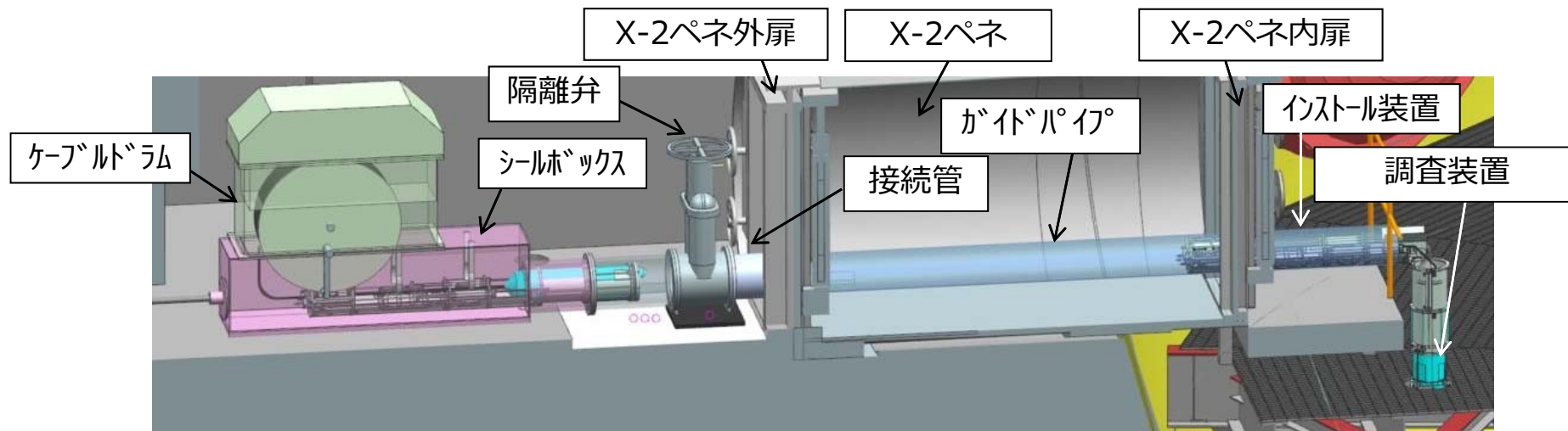
技術研究組合 国際廃炉研究開発機構
東京電力ホールディングス株式会社

1. X-2ペネからのPCV内部調査装置投入に向けた作業

- 1号機原子炉格納容器（以下、PCV）内部調査は、X-2ペネトレーション（以下、ペネ）からPCV内に投入する計画
- 調査装置投入に向け、X-2ペネ（所員用エアロック）の外扉と内扉の切削およびPCV内干渉物の切断等が必要
- 主な作業ステップは以下の通り
 - ① 隔離弁設置（3箇所）
 - ② 外扉切削（3箇所）
 - ③ 内扉切削（3箇所）
 - ④ PCV内干渉物切断
 - ⑤ ガイドパイプ設置（3箇所）



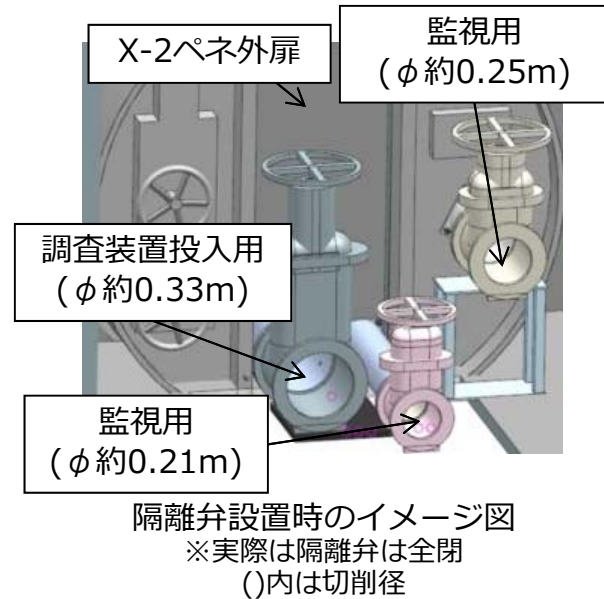
1号機原子炉建屋1階におけるX-2ペネの位置



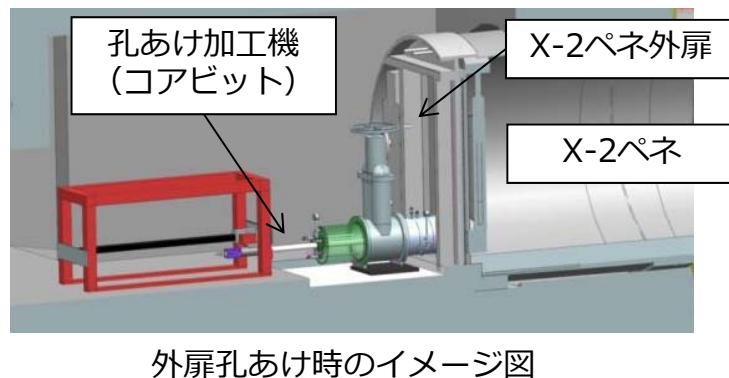
内部調査時のイメージ図 (A-A矢視)

2. PCV内部調査装置投入に向けた主な作業ステップ

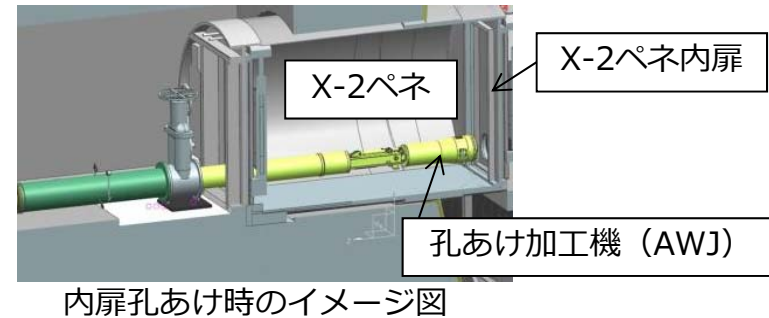
1. 隔離弁設置 (3箇所) 2019.5.10完了



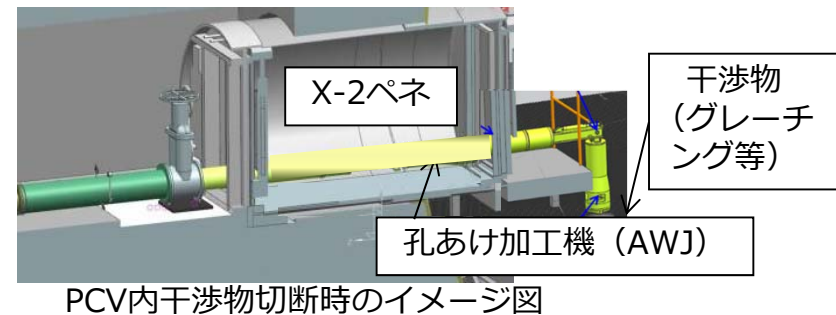
2. 外扉切削 (3箇所) 2019.5.23完了



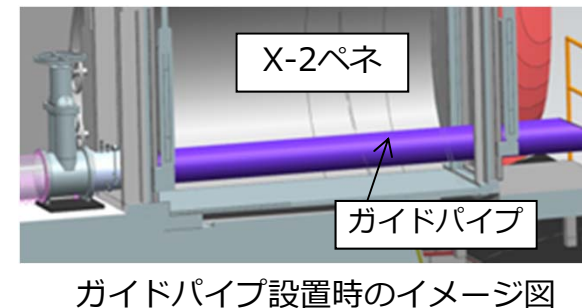
3. 内扉切削(AWJ) (3箇所) 2020.4.22完了



4. PCV内干渉物切断 実施中



5. ガイドパイプ設置 (3箇所)

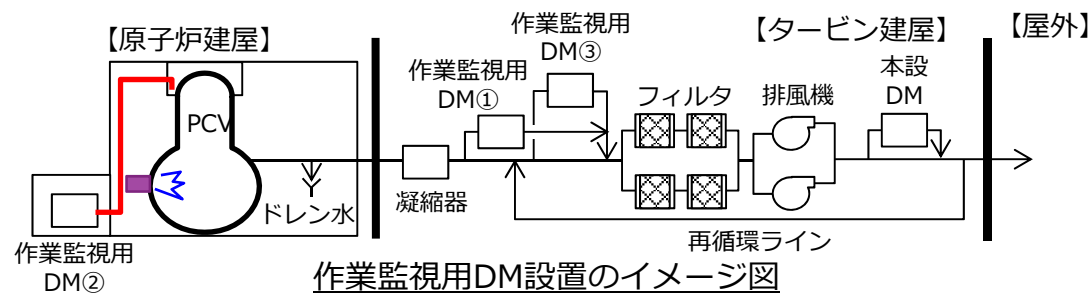


3. PCV内部調査装置投入に向けた作業状況

- PCV内部調査装置（以下、水中ROV）投入に向けた作業を2019年4月8日より着手しており、外扉の切削完了後、2019年6月4日にX-2ペネ内扉に、AWJ※¹にて孔（孔径約0.21m）を開ける作業中、PCV内のダスト濃度上昇を早期検知するためのダストモニタ（下記図の作業監視用DM①）の値が作業管理値（ $1.7 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ ）※²に達したことを確認

※作業監視用DM①の下流側にダストを除去するフィルタがあり、フィルタの下流のダストモニタ（下記図の本設DM）には有意な変動はなく、環境への影響はないことを確認

- その後ダスト濃度の監視を充実・継続しつつ、切削量を制限した上で、作業を実施し、内扉の切削が完了（2019年7月～2020年4月22日）、8月25日にグレーチング切断作業が完了
- 9月29日よりグレーチング下部鋼材切断に向けた準備作業中に、切断範囲の下部に原子炉再循環系統（以下、PLR）の計装配管が敷設されていることを確認
- 2021年4月23日から29日にかけて干渉物調査を実施し、干渉物となるPLR計装配管や電線管等の位置情報を取得
- 干渉物調査の結果から位置評価を行い、水中ROVの投入ルートが確定したことから、準備が整い次第、干渉物切断作業を再開

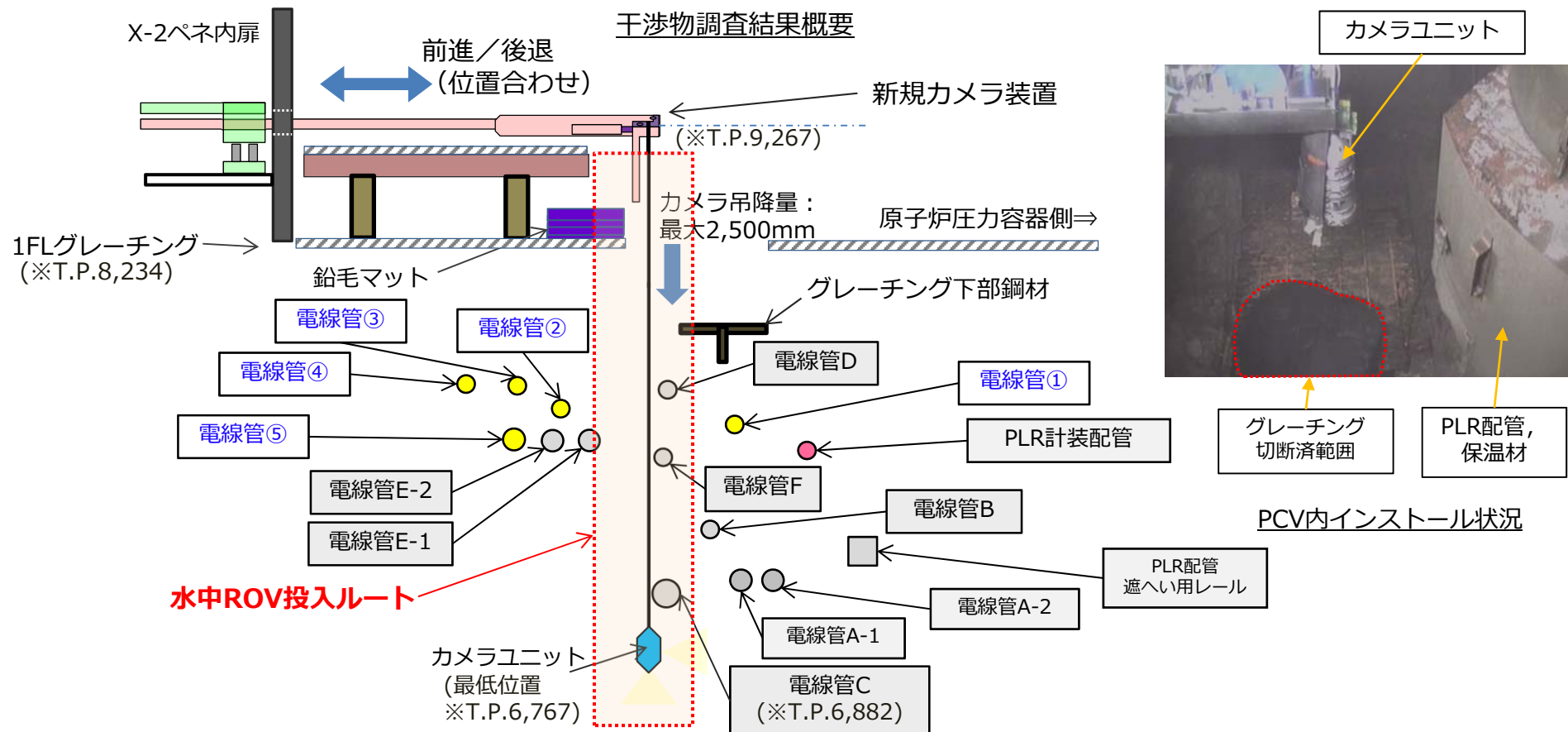


- ※1: 高圧水を極細にした水流に研磨材を混合し切削性を向上させた孔あけ加工機(アプレシブウォータージェット)
- ※2: フィルタのダスト除去能力を考慮し、本設DM警報設定値の1/10以下に設定
- ※3: 新規カメラ装置を俯瞰し監視するため、250Aカメラチャンバから挿入するカメラ

- 作業監視用DM①：ガス管理設備のダスト濃度上昇の早期検知用
- 作業監視用DM②：PCV上蓋近傍のダスト濃度監視用（増設）
- 作業監視用DM③：ダスト濃度監視の連続性確保を目的とした、再循環希釈後のダスト濃度監視用（増設）
- 本設DM：フィルタでのダスト除去後のダスト濃度上昇の早期検知用

4. 干渉物調査の結果(1/2)

- 干渉物調査を4月23日～29日にかけて実施し、これまで情報を得られていない電線管を5本（下図電線管①～⑤）確認したが、今後の干渉物切断への影響は少ないと判断
- 調査の結果から、各干渉物の位置を評価し、今後の干渉物切断によりPLR計装配管に影響を与えない位置となるよう、水中ROV投入ルートを確認
- 水中ROV投入ルート上には干渉物となる鉛毛マット、グレーチング、グレーチング下部鋼材、電線管が存在することから、今後干渉物切断作業を行う予定



※推定高さを記載

5/26時点の水位 T2(T.P.5,964)とL02(T.P.5,664)の間

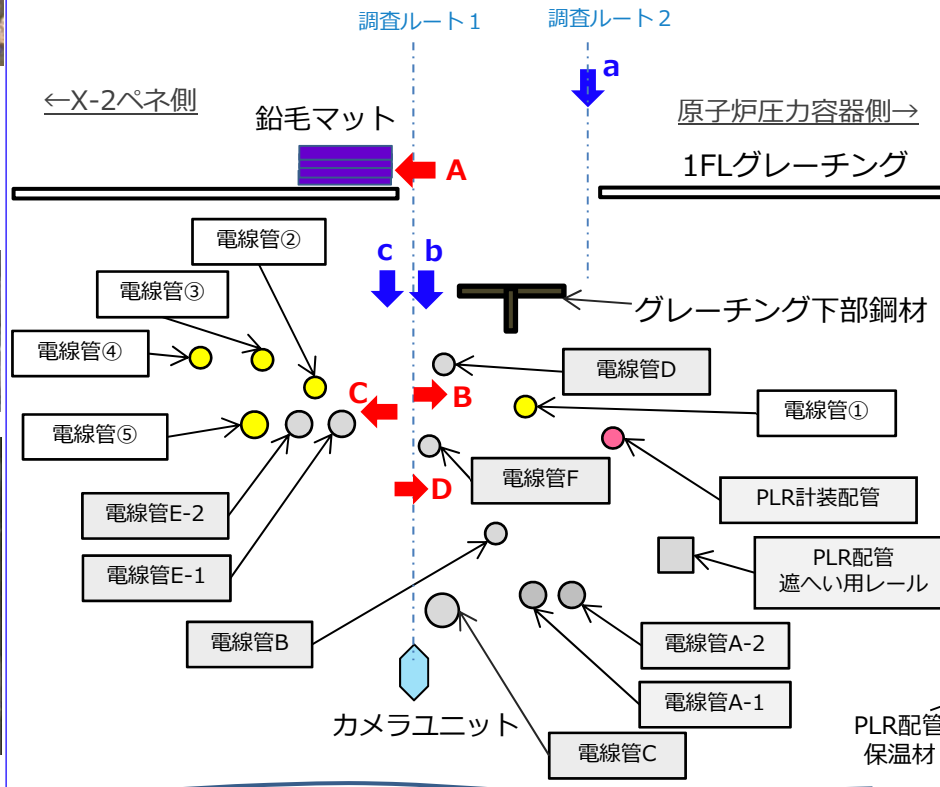
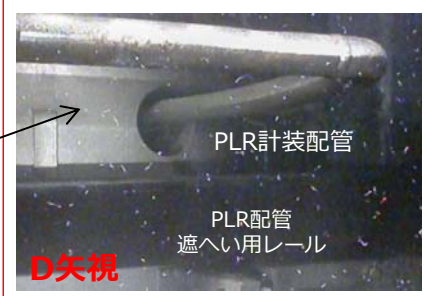
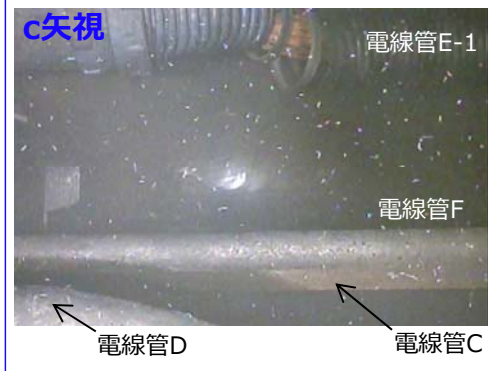
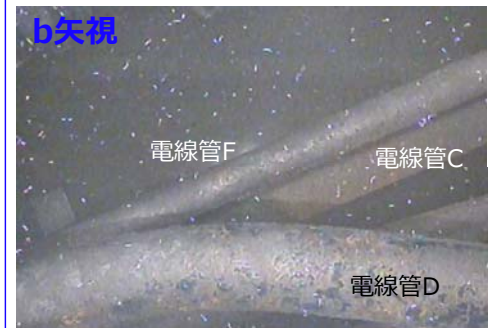
資料提供：国際廃炉研究開発機構 (IRID)

4. 干渉物調査の結果(2/2)

各干渉物の状況

横向きカメラ

下向きカメラ



※調査によりPCV水面は確認できたが、水位の評価は実施できず

5. PCV内干渉物の切断計画

- 干渉物切断にあたり、既存のAWJ装置による切断が困難であることから、新たに2種類のAWJ装置を開発
 - 鉛毛マット除去用AWJ装置

鉛毛マットの高さ及び位置関係から、既存のAWJ装置による切断ができないことから、鉛毛マット除去用として開発したもの
 - ノズル角度変更型AWJ装置

グレーチング下部鋼材切断における、PLR計装配管への影響を可能な限り低くする目的で、既存のAWJ装置からノズル角度を変更したもの
- 今後は新規装置と既存のAWJ装置を使い分け、干渉物切断作業を進めていく予定

装置	鉛毛マット除去用AWJ装置	ノズル角度変更型AWJ装置	既存のAWJ装置 (長尺/短尺)
イメージ 図			
切断 対象 (案)	・鉛毛マット (1FLグレーチング含む)	・グレーチング下部鋼材	・グレーチング下部鋼材 ・電線管

6. 今後の予定

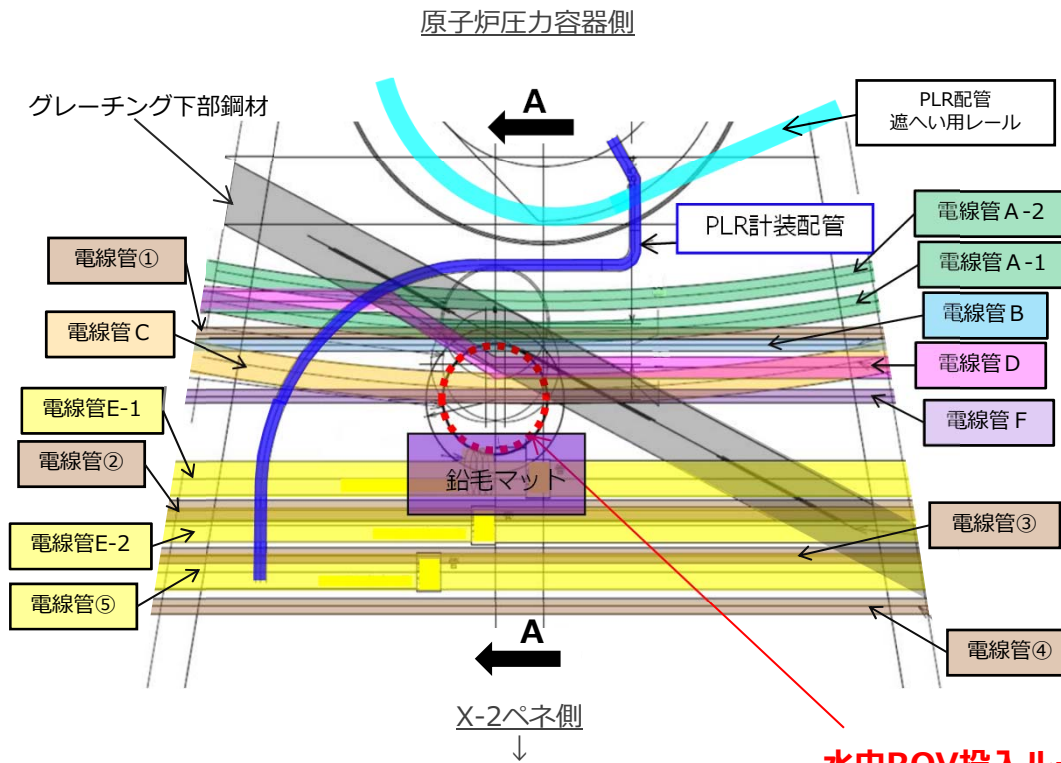
- 現在干渉物切断作業再開に向けた準備作業を行っており、準備が整い次第、干渉物切断作業を進めていく予定

作業項目		2020年度		2021年度			
		2月	3月	4月	5月	6月	7月以降
干渉物切断作業等	PCV内干渉物切断	PCV圧力低下不具合対策		PCV圧力低下現地対策作業	干渉物調査 位置評価	干渉物切断準備作業	干渉物切断作業進捗を踏まえ工程を精査
	ガイドパイプ設置(3箇所)					鉛毛マット、グレーチング下部鋼材、電線管、手摺(横部)等切断	
1号PCV内部調査(準備含む)							準備作業

(注) 各作業の実施時期については計画であり、現場作業の進捗状況によって時期は変更の可能性あり。

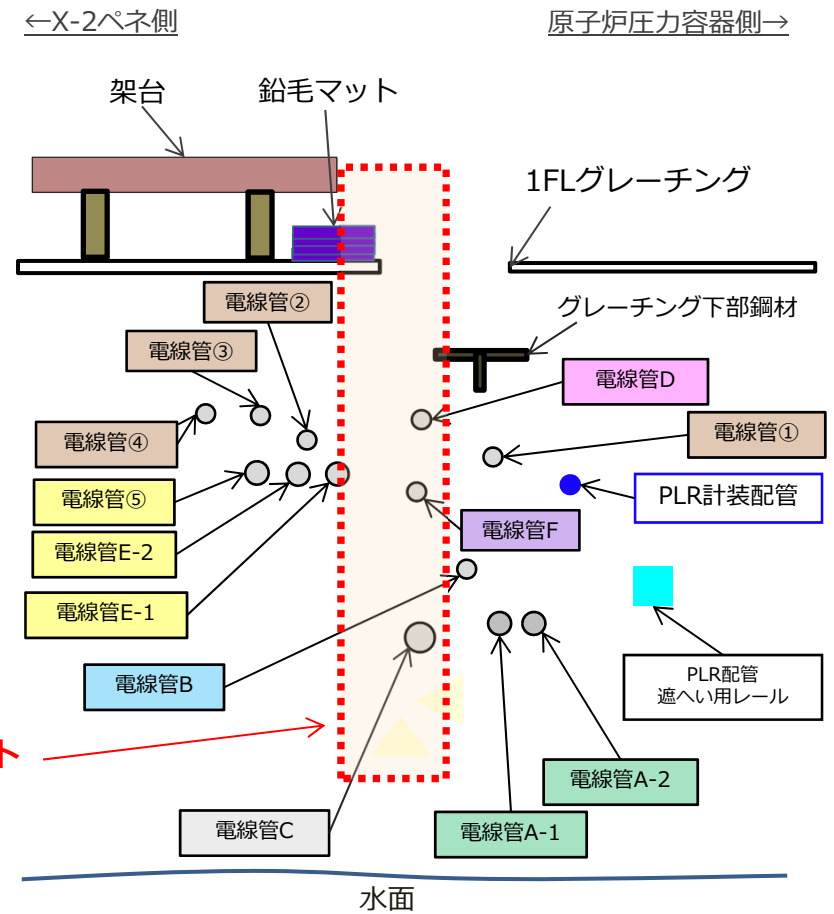
(参考) 水中ROV投入ルートと干渉物配置

平面図



水中ROV投入ルート

A-A断面図



2号機 PCV内部調査及び試験的取り出しの準備状況

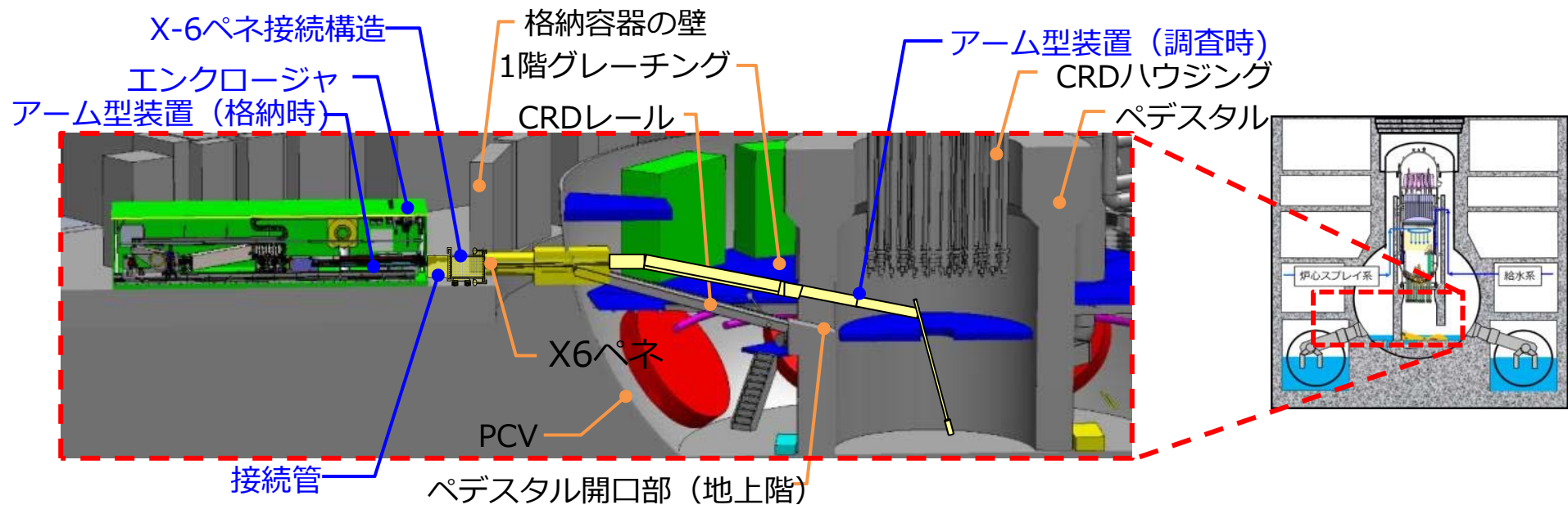
2021年5月27日



東京電力ホールディングス株式会社

1. PCV内部調査及び試験的取り出しの計画概要

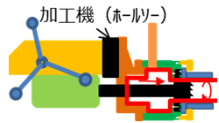
- 2号機においては、PCV内部調査及び試験的取り出し作業の準備段階として、作業上の安全対策及び汚染拡大防止を目的として、今回使用する格納容器貫通孔（以下、X-6ペネ）に下記設備を設置する計画
 - X-6ペネハッチ開放にあたり、PCVとの隔離を行うための作業用の部屋（隔離部屋）
 - PCV内側と外側を隔離する機能を持つ X-6ペネ接続構造
 - 遮へい機能を持つ 接続管
 - アーム型装置を内蔵する金属製の箱（以下、エンクロージャ）
- 上記設備を設置した後、アーム型装置をX-6ペネからPCV内に進入させ、PCV内障害物の除去作業をいつつ、内部調査や試験的取り出しを進める計画



2号機 内部調査・試験的取り出しの計画概要

2. PCV内部調査及び試験的取り出し作業の主なステップ

0. 事前準備作業



- 事前にスプレイ治具取付事前作業 (X-53 ペネ孔径拡大) を実施

1. 隔離部屋設置



- ハッチ開放にあたり事前に隔離部屋を設置

2. X-6ペネハッチ開放

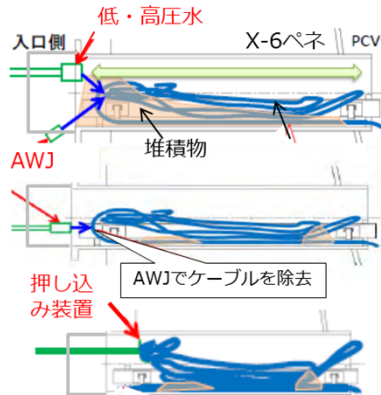
ハッチ開放装置



- ハッチ開放装置によりハッチを開放

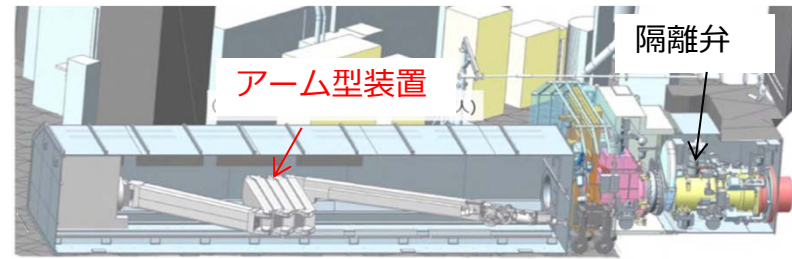
3. X-6ペネ内堆積物除去

X-6ペネ内部にある堆積物・ケーブル類を除去する



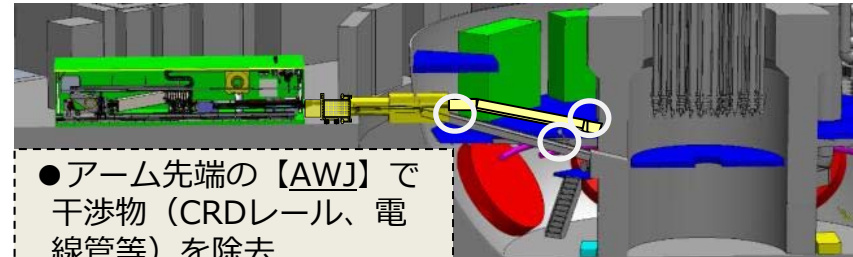
- 【低・高圧水】で堆積物の押し込み
- 【AWJ】でケーブル除去
- 【押し込み装置】でケーブルを押し込み

4. アーム型装置設置



5. 内部調査及び試験的取り出し作業

① アーム型装置によるPCV内部調査



- アーム先端の【AWJ】で干渉物 (CRDレール、電線管等) を除去

② アーム型装置による試験的取り出し

燃料デブリ回収装置先端部



<金ブラシ型> <真空容器型>

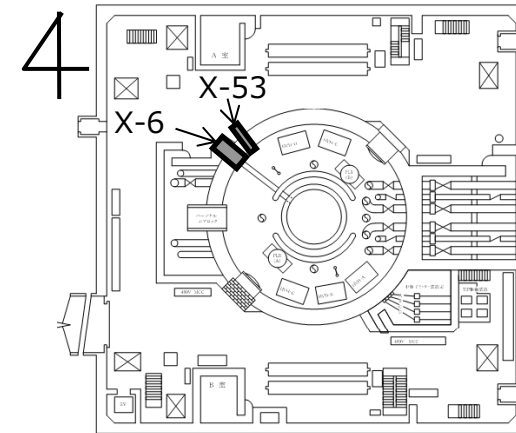


(注記)

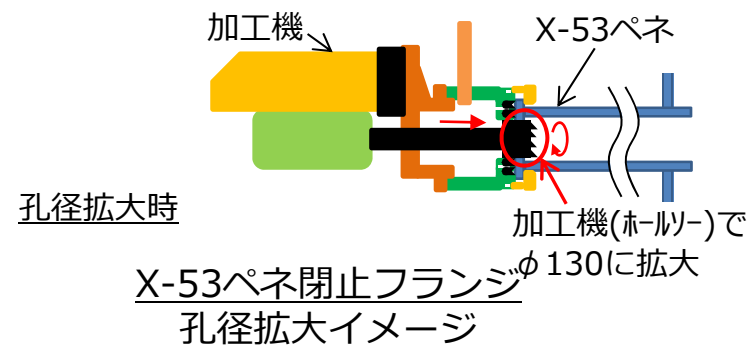
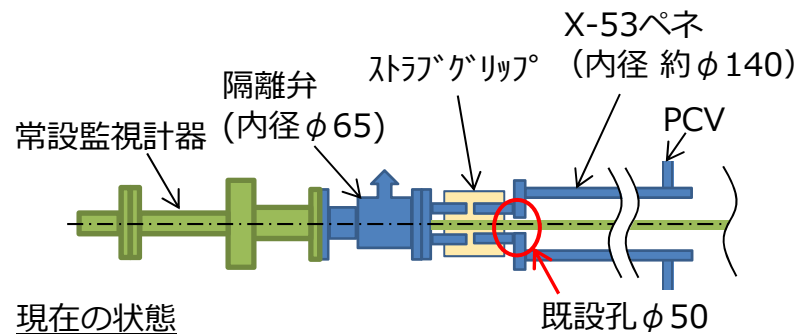
- ・ 隔離弁：PCV内/外を仕切るために設置した弁
- ・ AWJ (アブレシブウォータージェット)：高圧水に研磨材 (アブレシブ) を混合し、切削性を向上させた加工機

3-1. スプレー治具取付作業 概要

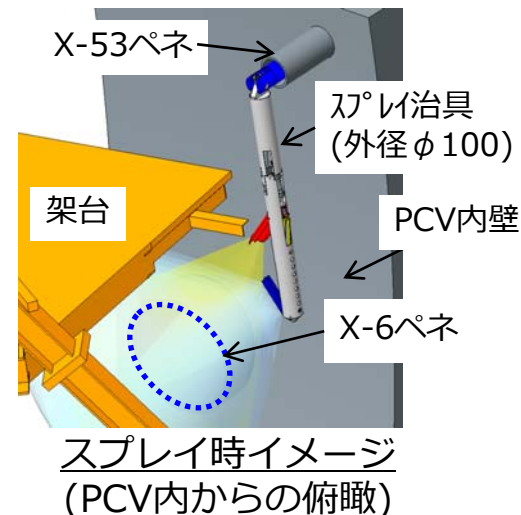
- 放射性ダストの発生が予想されるX-6ペネ内堆積物除去作業、PCV内干渉物切断時のダスト抑制のため、X-6ペネ近傍のX-53ペネにスプレー治具を取付け、スプレーする計画。
- スプレー治具（ $\phi 100$ ）の取付にあたり、現在のX-53ペネフランジに既設孔（ $\phi 50$ ）の拡大（ $\phi 130$ ）を行う。



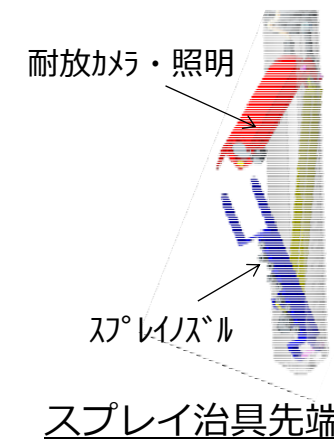
2号機原子炉建屋1階 ペネ配置図



X-53ペネ閉止フランジ
孔径拡大イメージ



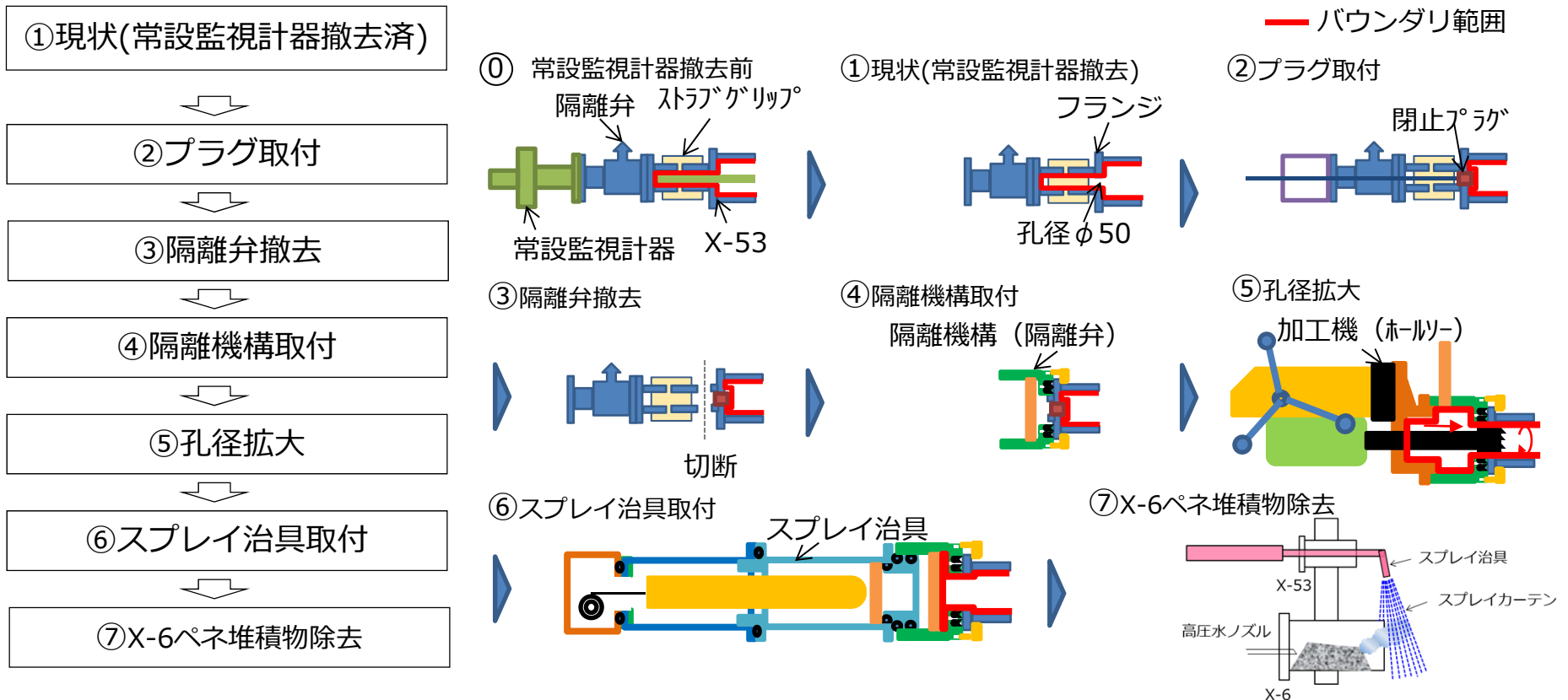
スプレー時イメージ
(PCV内からの俯瞰)



スプレー治具先端

3-2. スプレイ治具取付作業 作業ステップ

- スプレイ治具取付作業は以下のステップで実施する。
- 作業の各ステップではバウンダリを構築し、PCV内の気体が外部に漏れ出て周辺環境へ影響を与えないよう作業する。
- これまでの作業と同様に、PCV内の気体が外部に漏れ出て周辺環境へ影響を与えていないことを確認するため、作業中はダストモニタによるダスト測定を行い、作業中のダスト濃度を監視する予定。
- なお、スプレイ治具取付前にX-53ペネ内調査（2012年1月調査時の残置物の確認）と必要に応じて残置物撤去作業を行う計画。



4. 工程

- 英国で開発を進めているロボットアームについては、ロボットアームの動作試験やエンクローージャとの組合せの確認試験を進めているところ。
- 英国及び日本における新型コロナウイルスの感染状況や入国制限、動作確認の対応状況を考慮し、一部の性能確認試験等を実施場所を再度調整し英国で実施することとしたことから、輸送時期については精査しているところ。
- また、スプレイ治具取付作業等の現場準備作業については、開発状況や作業準備の進捗を踏まえつつ順次進めているところ。

	～2020年	2021年	2022年
・ X-6ペネ内堆積物調査	▼10/28 接触調査 ▼10/30 3Dスキャン調査		
・ 常設監視計器取外し	▼11/10～16常設監視計器取外し作業		
・ スプレイ治具取付作業		X-53ペネ孔径拡大及びスプレイ治具取付作業	
・ 隔離部屋設置 ・ X-6ペネハッチ開放 ・ X-6ペネ堆積物除去 ・ 試験的取り出し装置設置			
アーム・エンクローージャ 装置開発	製作・動作確認 (英国)	性能確認試験 ・ 訓練 (国内)	モックアップ (国内)
内部調査及び 試験的取り出し作業		輸送時期調整中	

【速報】 2号機シールドプラグ高濃度汚染への対応状況について

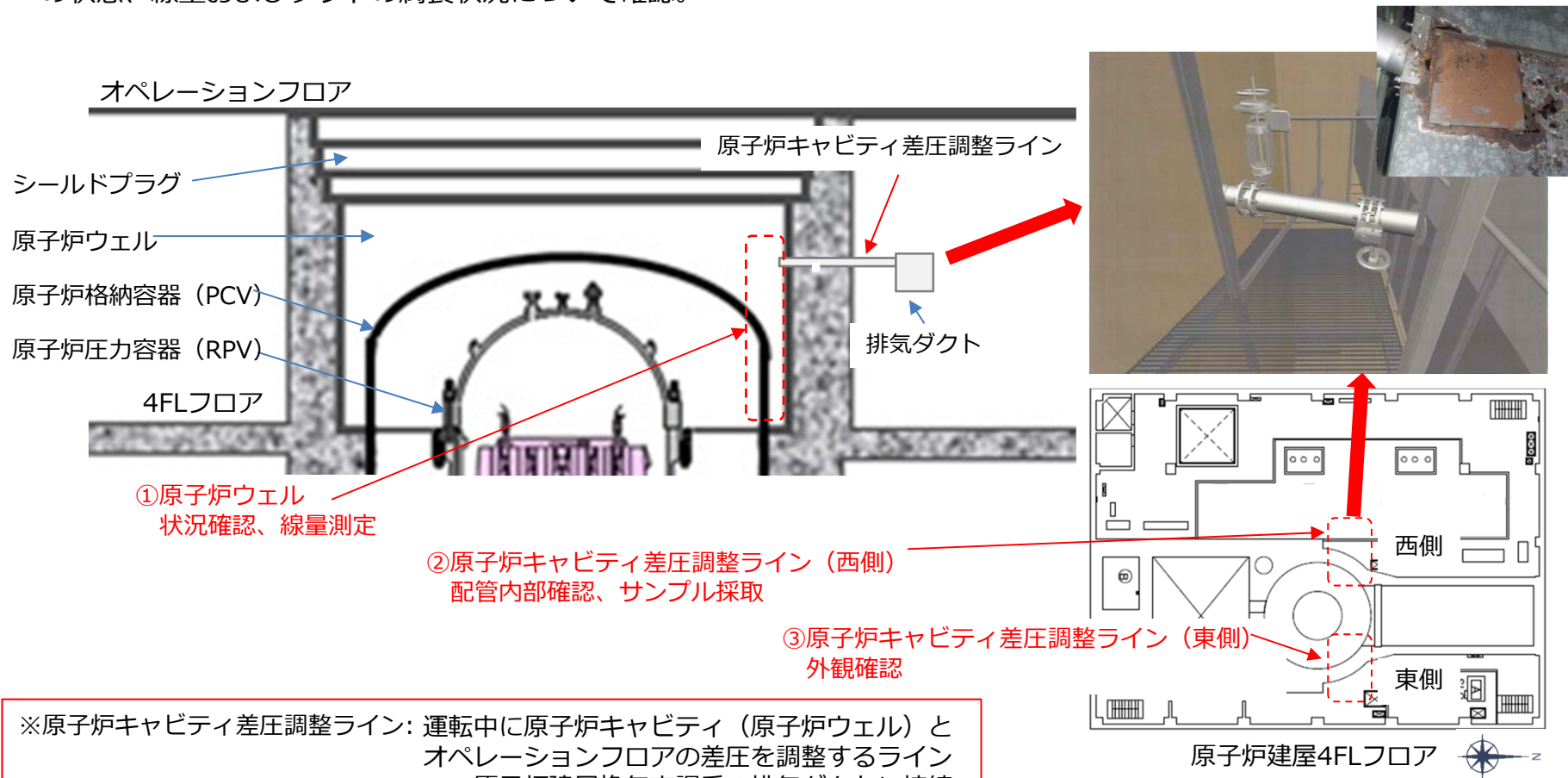
2021年5月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

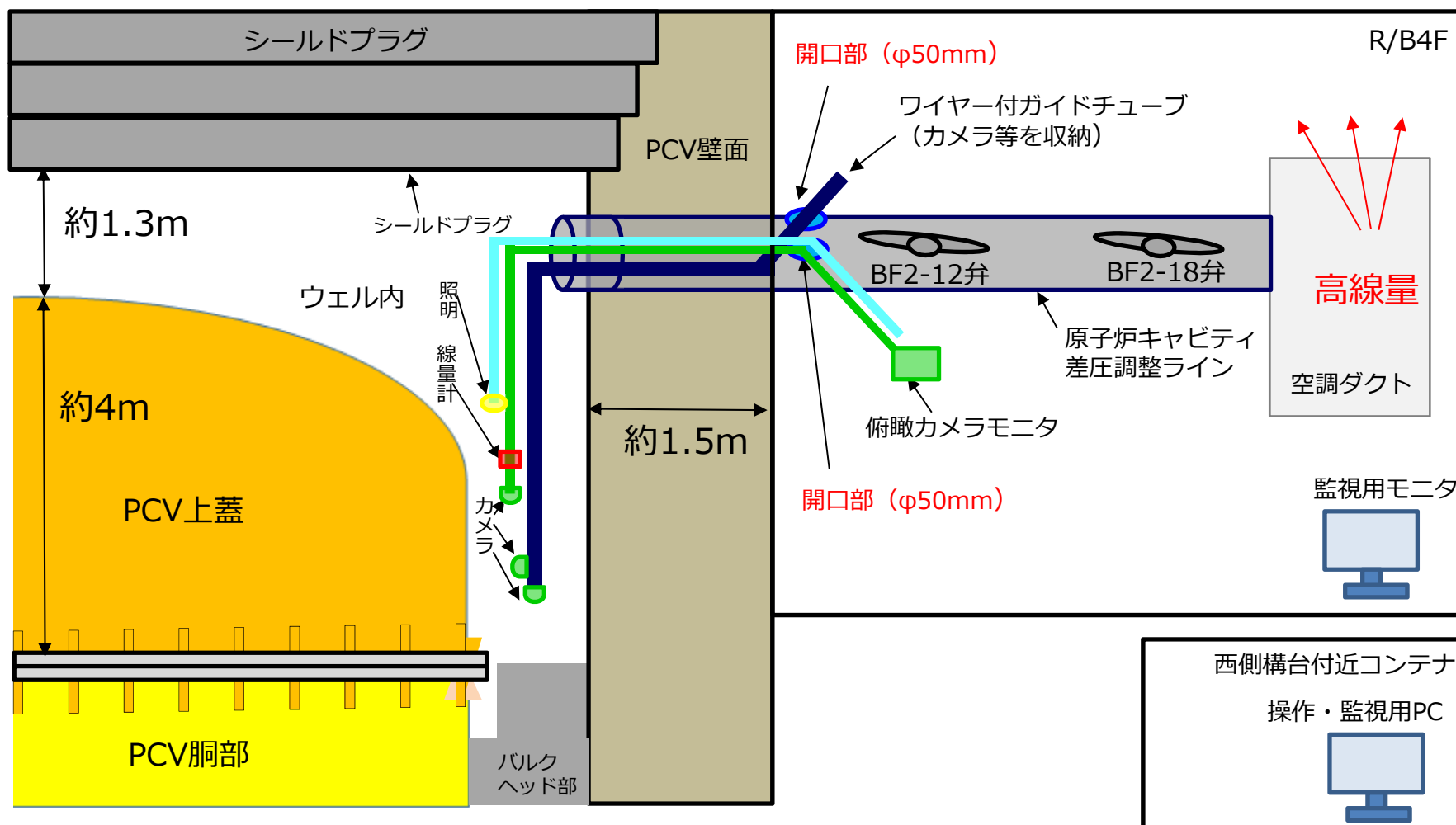
1. 原子炉ウェル内調査について

- 2号機シールドプラグ下部の原子炉ウェル内の状況、線量等を確認するため、西側の原子炉キャビティ差圧調整ライン※を用いた調査を計画し、5/20、24に実施。PCV上蓋等に大きな損傷が無いことを確認。
- 調査前の現場確認で原子炉キャビティ差圧調整ラインの接続ダクト部に腐食等が確認されたため、事故調査への知見拡充の観点から配管内部の調査および配管内の堆積物採取を実施。今後分析等を進める。
- 西側のダクト部に腐食等が確認されているため、東側の原子炉キャビティ差圧調整ラインについて外観の調査を実施し、弁の状態、線量およびダクトの腐食状況について確認。



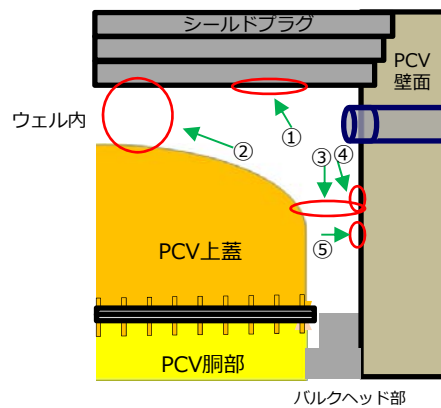
2-1. 原子炉ウェル調査 (内容・方法)

- 原子炉キャビティ差圧調整ラインから、線量計・カメラをウェル内に入れ、ウェル内の線量、状況等を調査した。
※当初、空調ダクト点検口からの調査機器挿入を計画していたが、ダクト内が高線量であり、被ばく量の増加となることが予想されたため、原子炉キャビティ差圧調整ライン上部に穿孔機で穴を開け、そこから調査機器を挿入する方法とした。



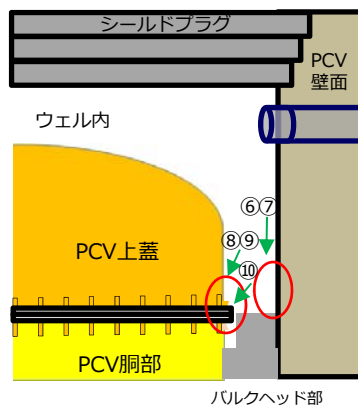
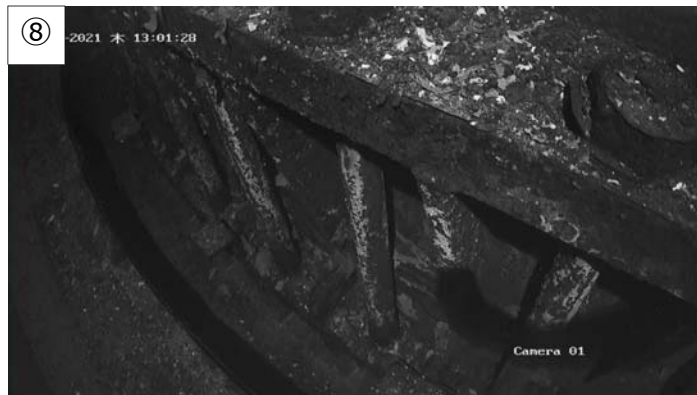
2-2. 原子炉ウェル調査結果（状況確認（1））

- ウェル内の状況をカメラにて確認した。（シールドプラグ、PCVヘッド、壁面等）



2-3. 原子炉ウェル調査結果（状況確認（2））

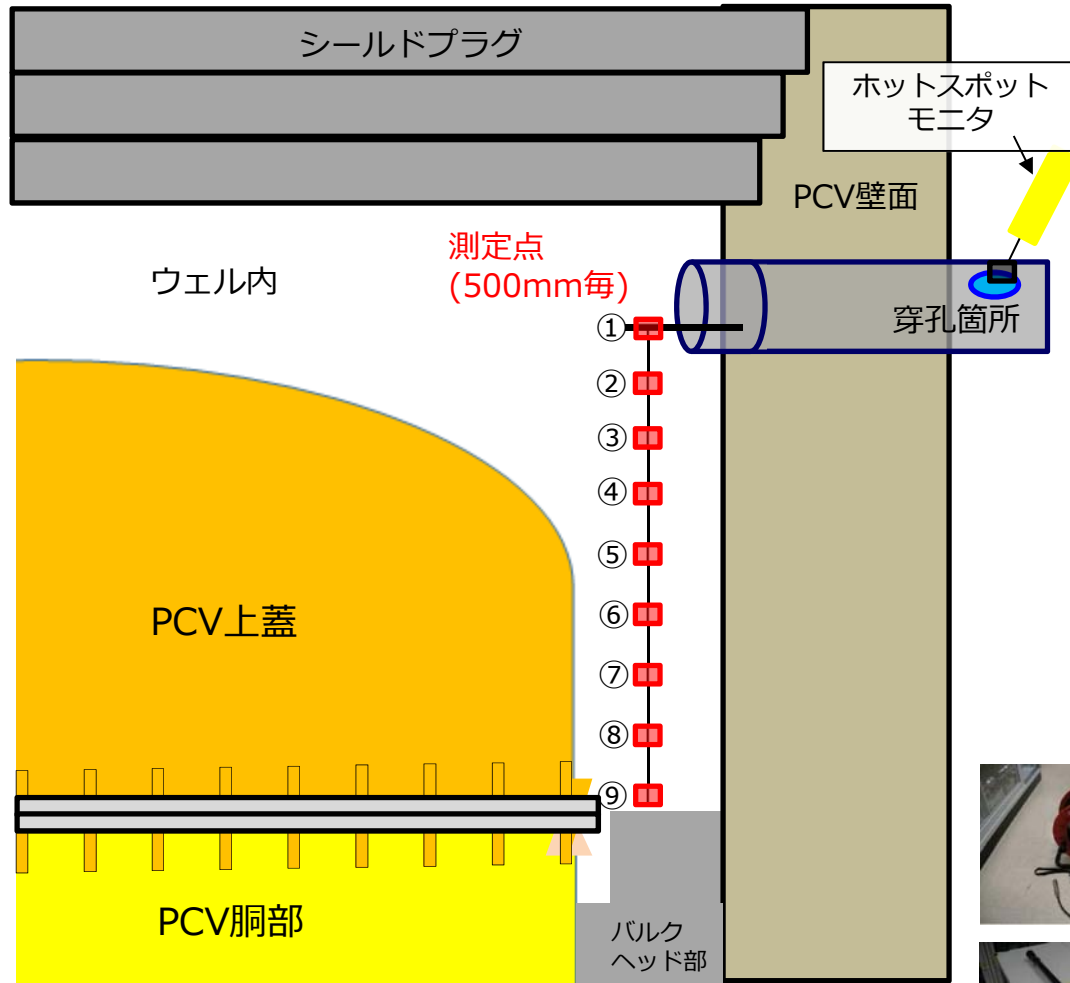
- ウェル内の状況をカメラにて確認した。（バルクヘッド部、PCVフランジ部）



2-4. 原子炉ウェル調査結果（線量測定結果）

- ウェル内の線量測定※結果は以下の通り。PCVフランジ付近で最大530mSv/hであった。
- ウェル内の線量については、再度測定する計画。

※配管高さを基準とし、下方向へ500mm毎の測定を実施



測定ポイント	距離 (mm)	線量当量率 (mSv/h)
①	0	74.6
②	500	150
③	1000	330
④	1500	300
⑤	2000	310
⑥	2500	380
⑦	3000	440
⑧	3500	530(最大)
⑨	4000	350

※ホットスポットモニタでの測定値

測定値 : 23.5mSv/h

(12.5mSv/h (水中サーベイメータ))

測定箇所: 穿孔箇所 配管内部

■ 使用測定器

➢ 水中サーベイメータ

- 校正年月日: 2021年2月10日
- 測定レンジ: 1mSv/h~1000Sv/h
- ケーブル長: 約50m

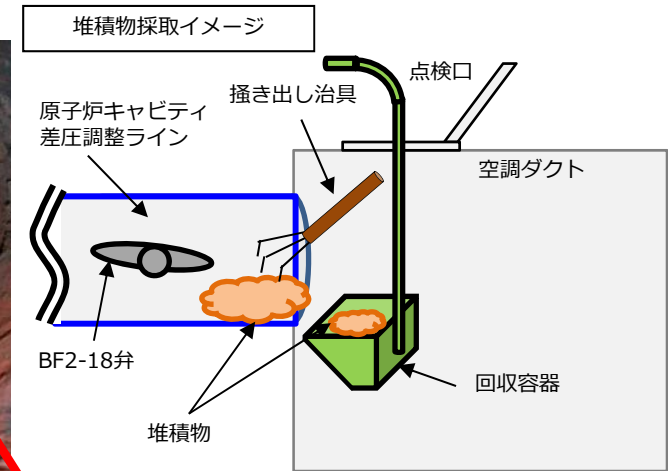
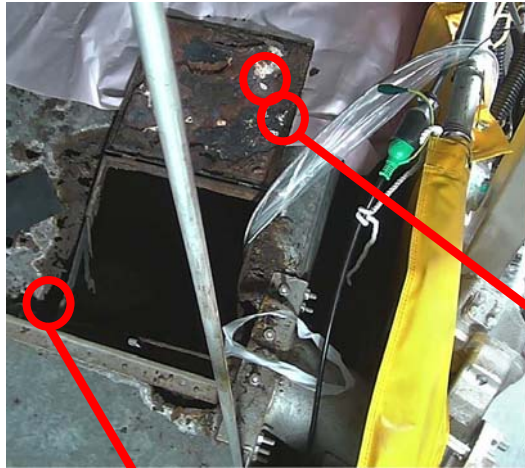
➢ ホットスポットモニタ

- 校正年月日: 2020年12月21日
- 測定レンジ: 0.01μSv/h~9.9Sv/h
- 伸ばし長: 約4m



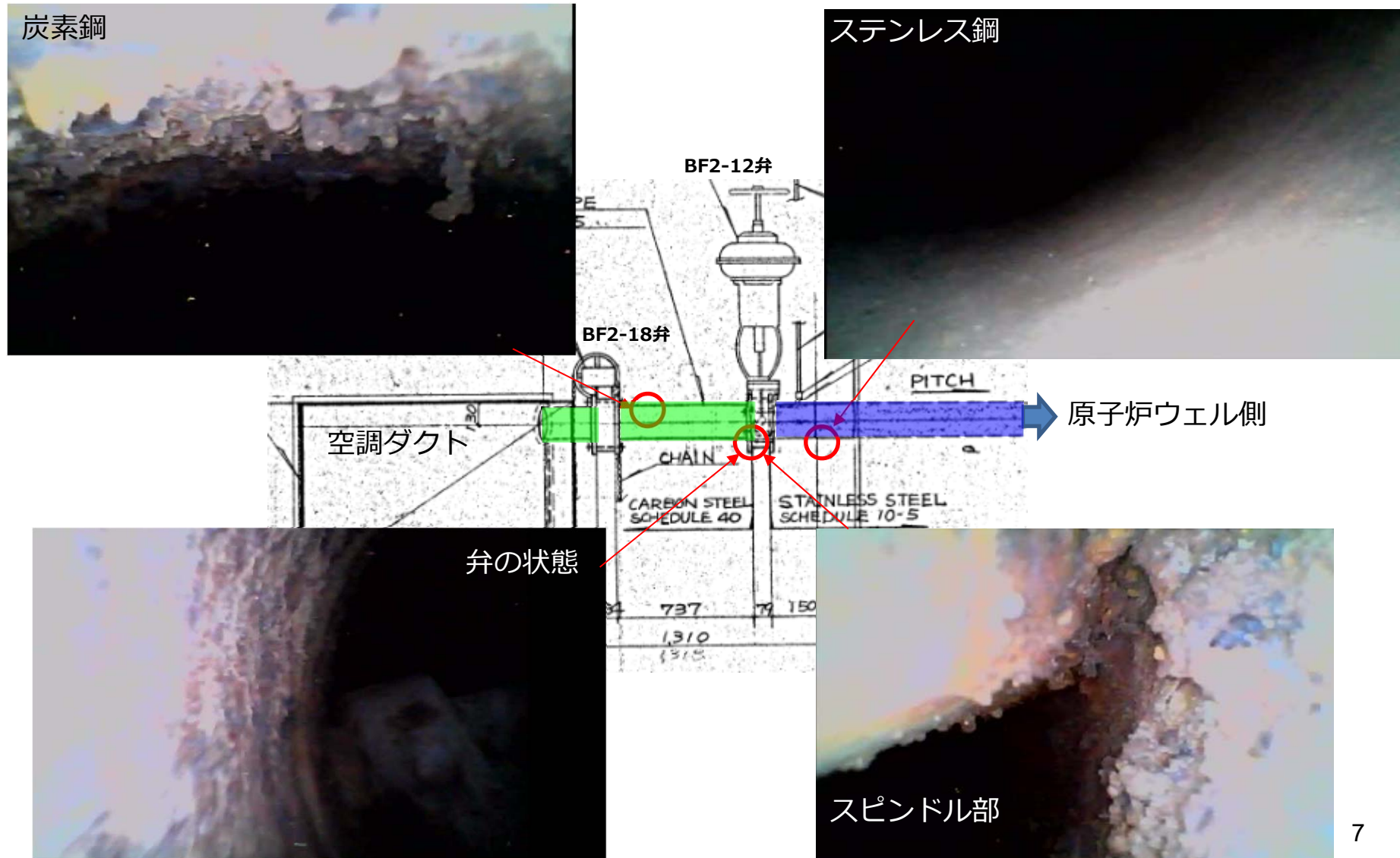
3-1. 原子炉キャビティ差圧調整ライン（西側）調査（サンプル採取）

- 事故調査の観点から、下記箇所のサンプル採取を実施した。
 - ・ ダスト上部の劣化部分
 - ・ ダクト点検口裏のゴムパッキン部分
 - ・ 配管内堆積物



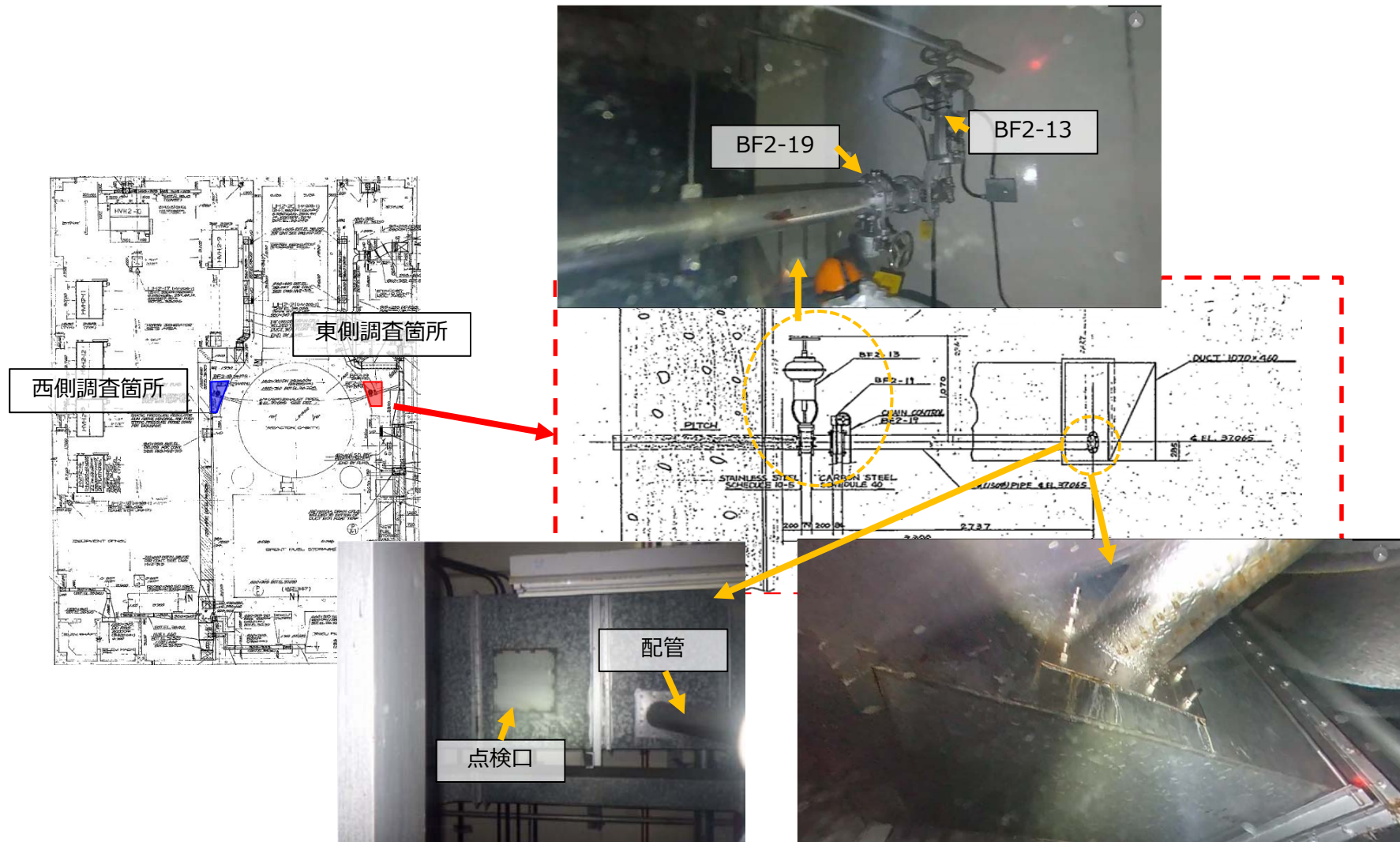
3-2. 原子炉キャビティ差圧調整ライン（西側）の調査（配管内部）

- BF2-12弁上流側配管（SUS）には、配管・弁箱（炭素鋼）にある肌荒れや堆積物は確認されなかった。
- BF2-12弁については、開状態であることを確認した。



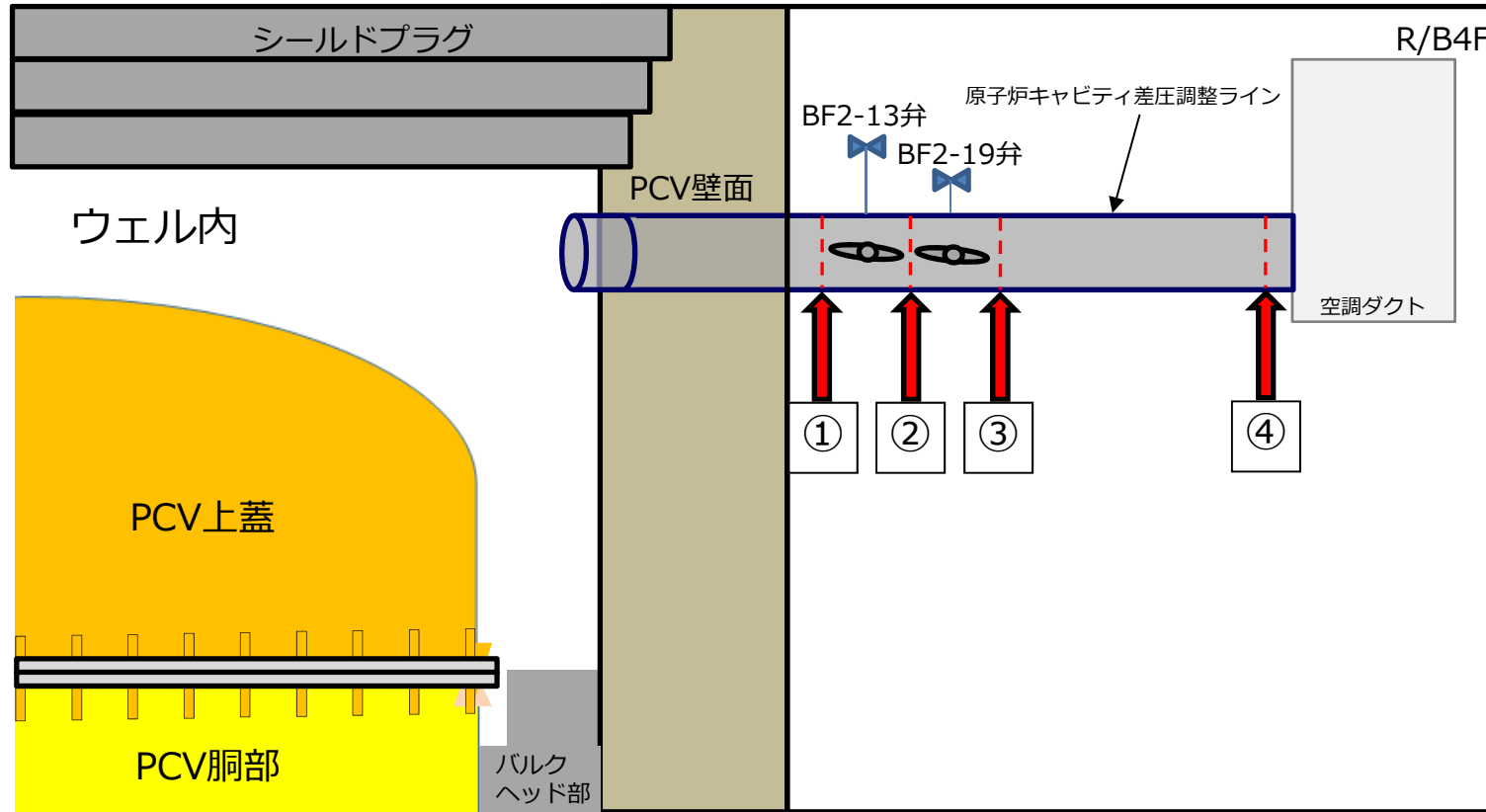
4-1. 原子炉キャビティ差圧調整ライン（東側）の調査（外観調査）

- 東側に敷設された原子炉キャビティ差圧調整ラインについて、現場調査を実施した。
 - 作業エリア（グレーチング）上の空間線量は約10mSv/hであった。※西側：約12mSv/h
 - BF2-13弁は、西側と同様に開状態であった。
 - ダクト側面、下部および点検口に、顕著な劣化は確認されなかった。



4-2. 原子炉キャビティ差圧調整ライン（東側）の調査（線量調査）

- 線量測定結果は以下の通り。
- 測定ポイント②の配管下部に、最大線量：51mSv/hを確認した。



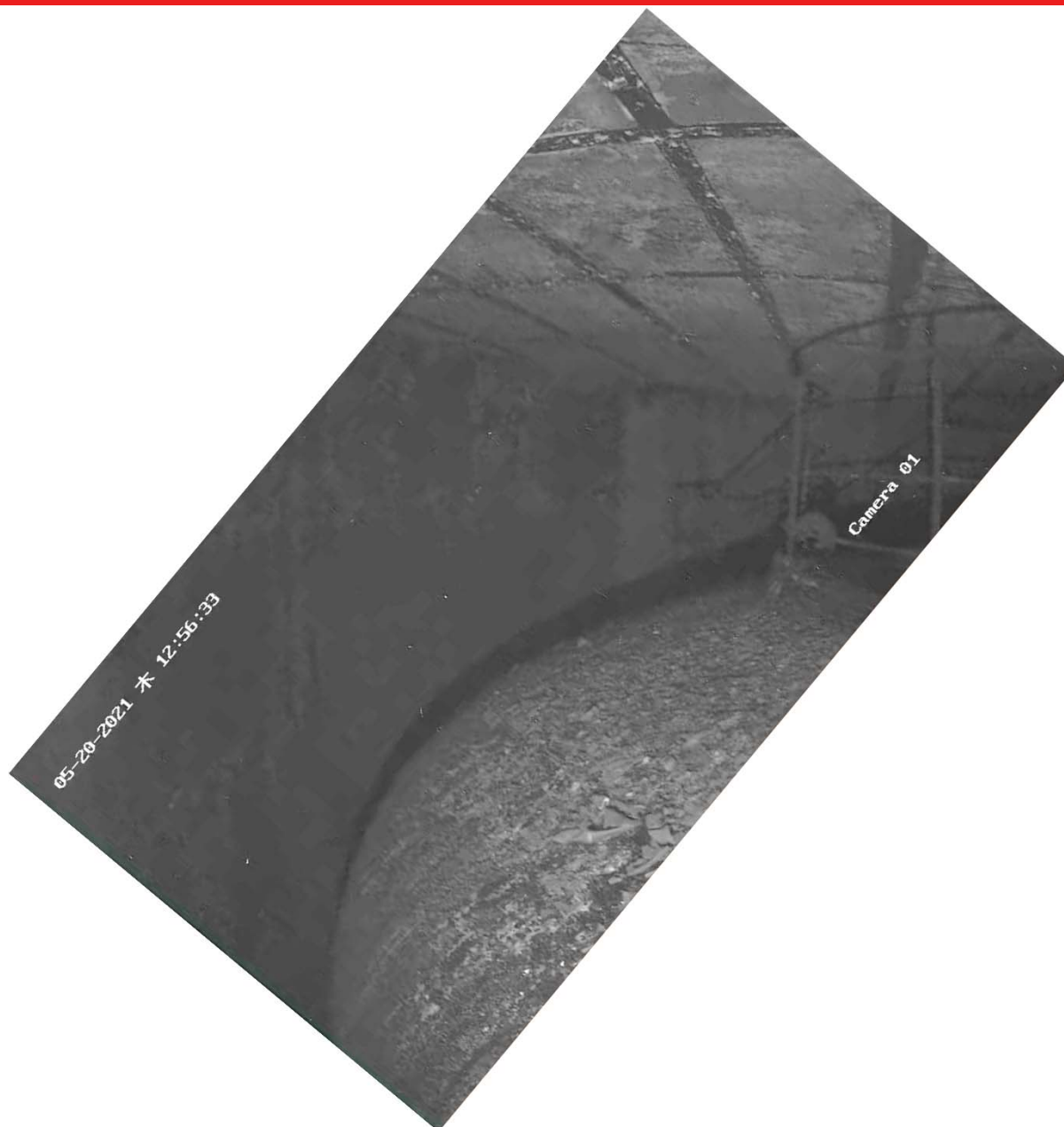
測定ポイント		①	②	③	④
		PCV壁面～BF2-13弁間	BF2-13～BF2-19弁間	BF2-19弁～ダクト間	ダクト近傍
配管	上部(mSv/h)	13	41	25	18
	下部(mSv/h)	13	51	37	20

5. 工程 (案)

	2020年度			2021年度					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2号機ウェル内調査	現場調査、遮蔽 [Redacted]			準備作業 [Redacted]	ウェル調査 [Redacted]	サンプル分析 (1F構内) [Redacted]			
				分析項目調整中			サンプル分析結果 [Redacted]		



(参考) PCVヘッド上部及びシールドプラグ下部



(参考) ウェル壁面およびPCVヘッド



(参考) ウェル壁面 (1)



(参考) ウェル壁面 (2)





(参考) ウェル壁面およびバルクヘッド部 (2)

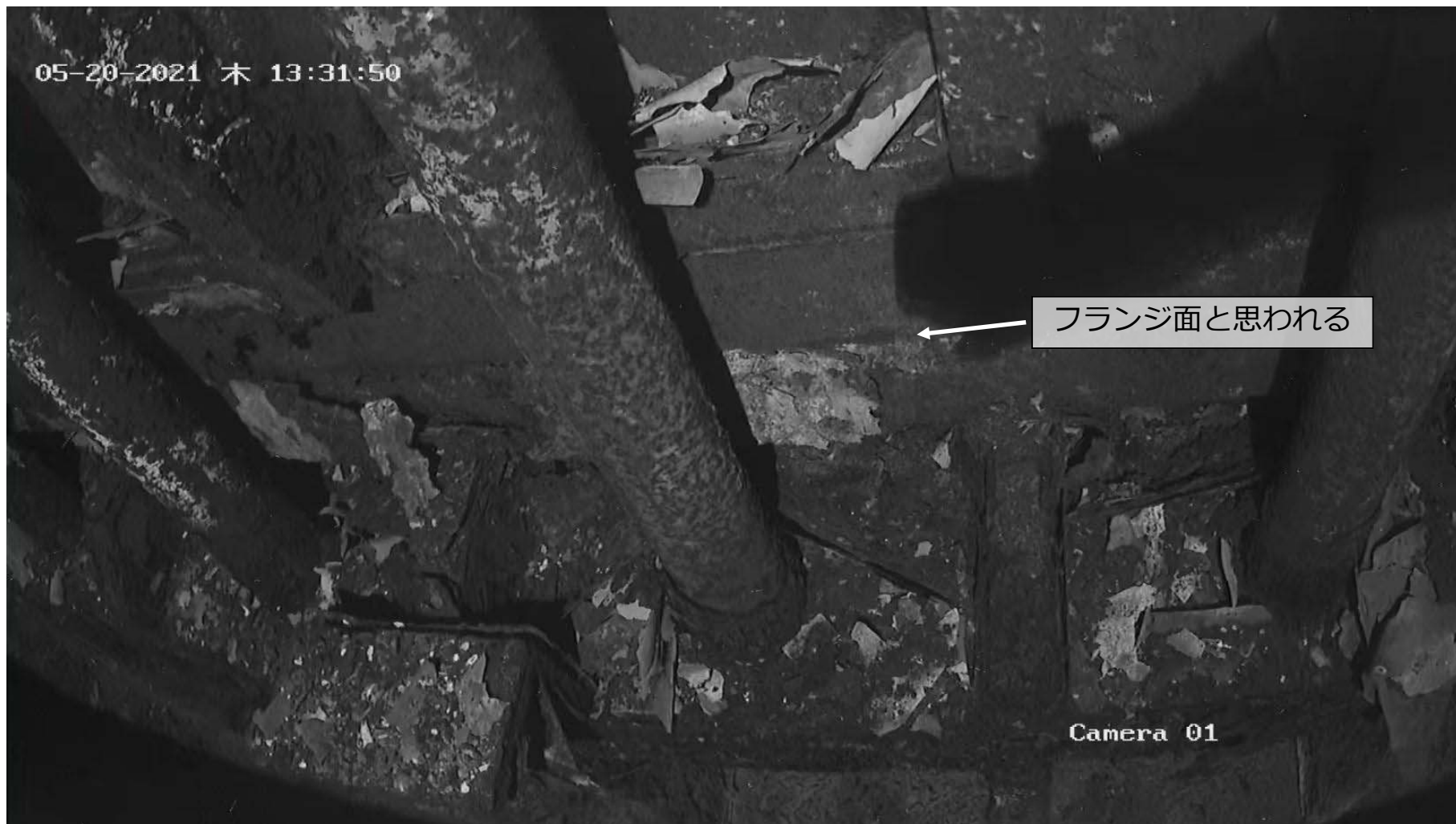


(参考) PCVヘッドおよび胴部のボルト状況 (1)



(参考) PCVヘッドおよび胴部のボルト状況 (2)







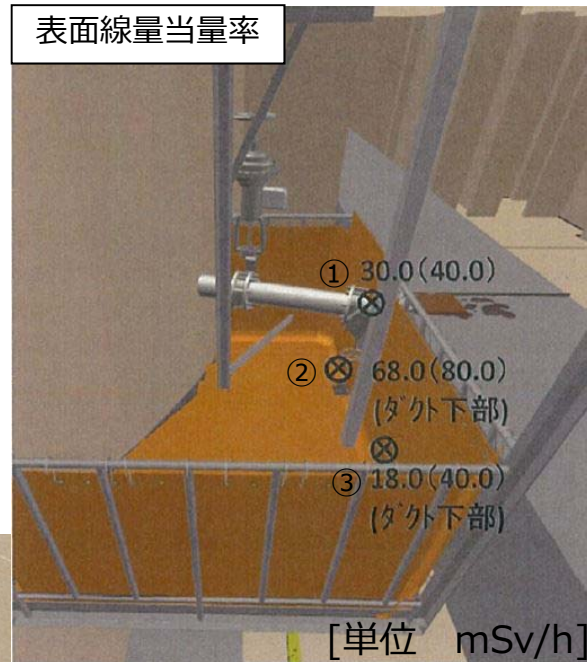




(参考) 作業エリアの空間線量および作業員被ばく線量について

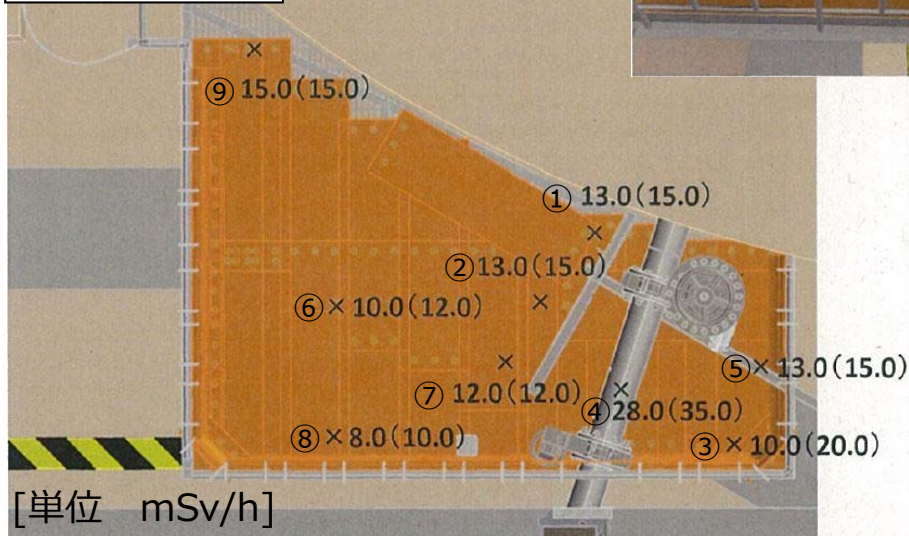
■ 作業エリアの空間線量は以下の通り。

ポイント	空間線量当量率 [mSv/h]
①	13
②	13
③	10
④	28
⑤	13
⑥	10
⑦	12
⑧	8
⑨	15



ポイント	表面線量当量率 [mSv/h]
①	30
②	68
③	18

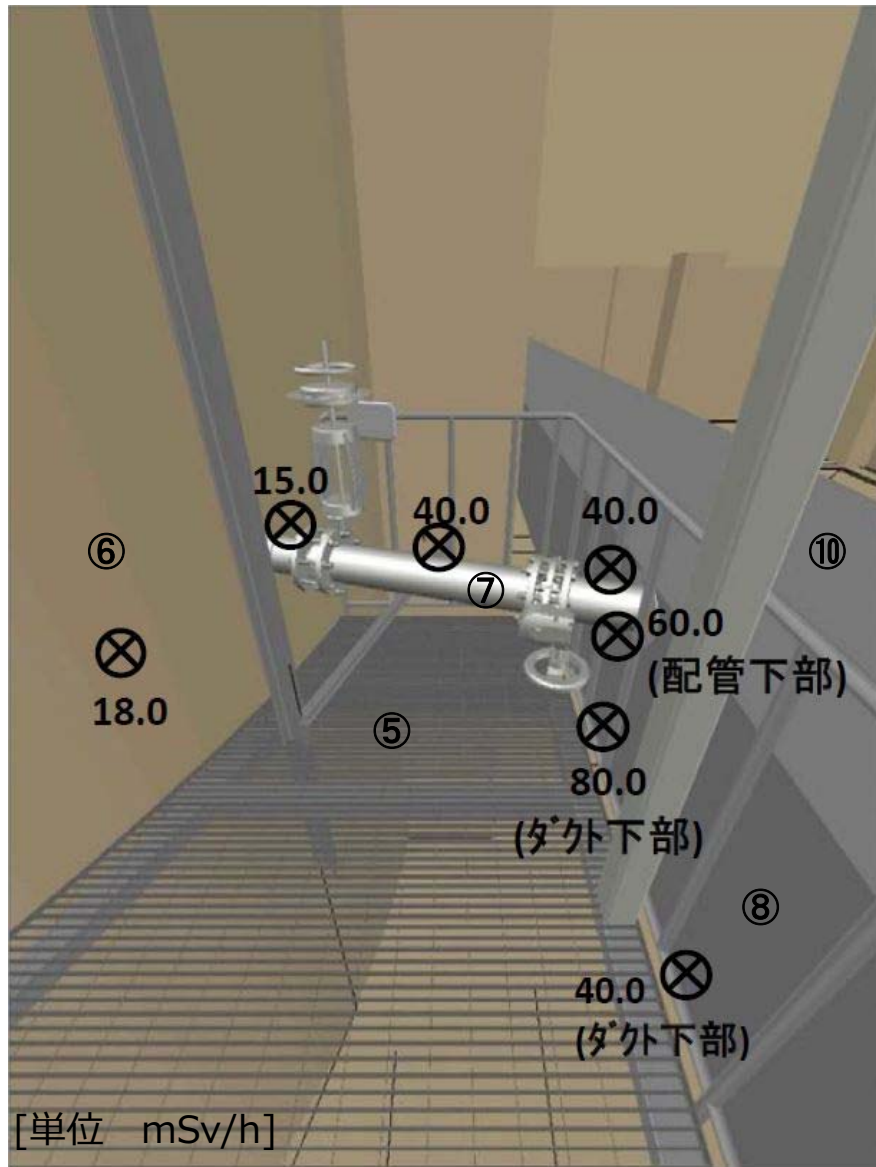
空間線量当量率



■ 作業員の被ばく線量については以下の通り。

作業日	作業内容	被ばく線量 (mSv)		
		総線量	個人最大	平均
5/19	配管穿孔、調査準備	24.58	1.86	1.54(16名)
5/20	ウエル内調査	25.10	1.82	1.48(17名)
5/24	ウエル内調査、片付け	11.52	1.93	1.28(9名)

(参考) サーベイデータ (原子炉キャビティ差圧調整ライン (西側))

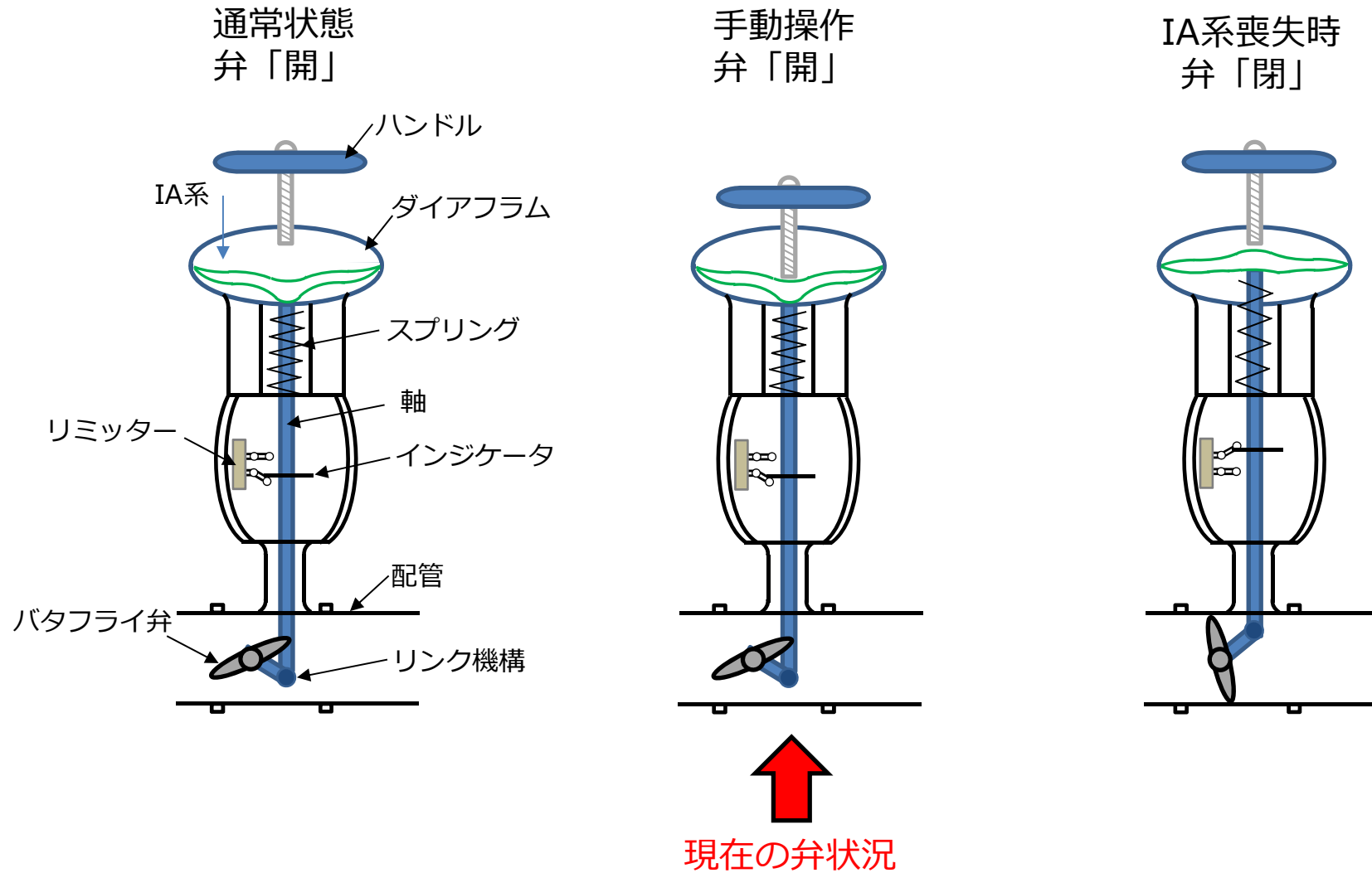


測定日 : 2021/3/5

使用測定器

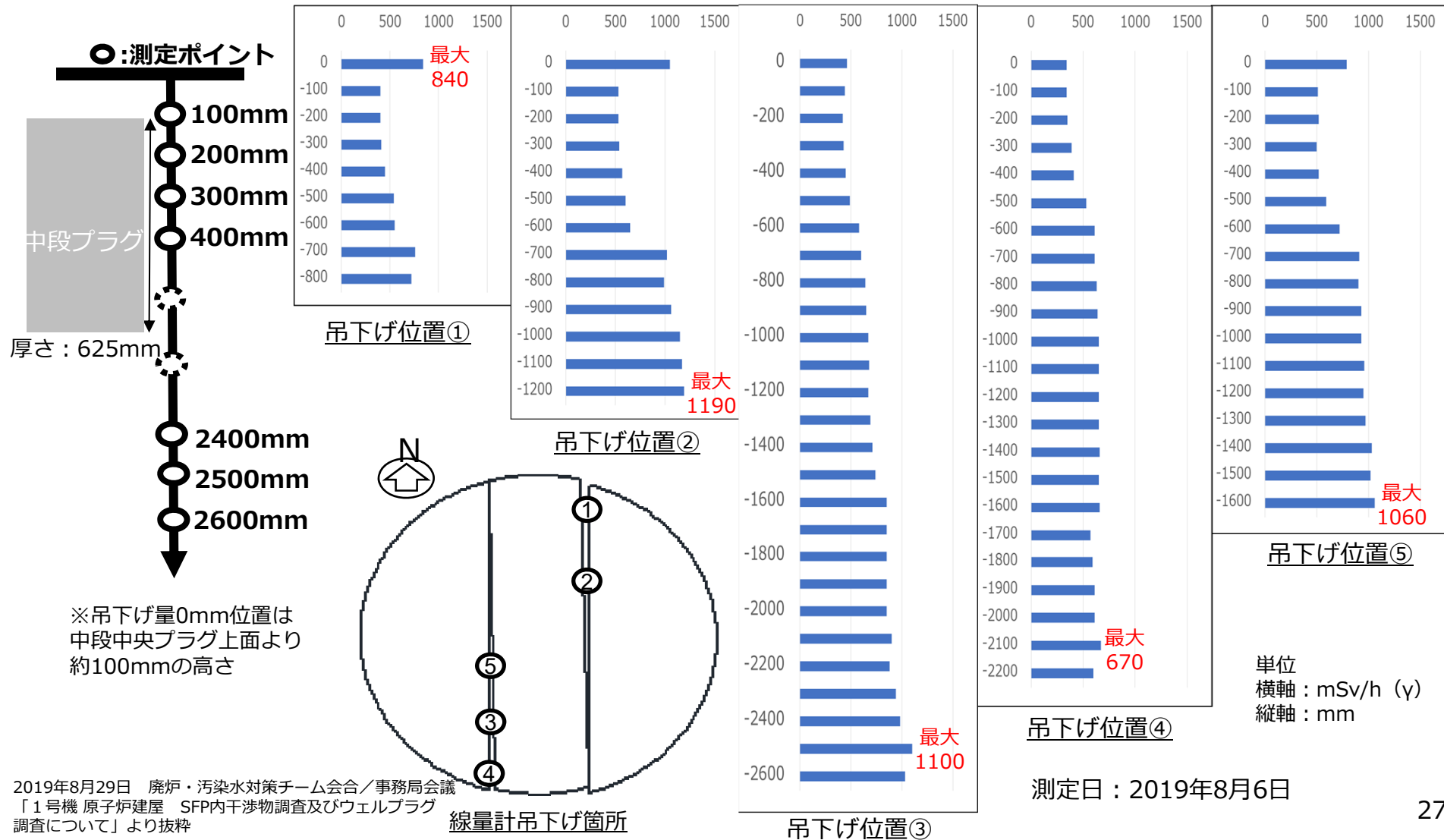
ICW,ICWBL,ICWBH,GMAD, α

スミヤ採取場所	β (cpm)	α (cpm)	γ (mSv/h)	$\beta+\gamma$ (mSv/h)
⑤	>100000	0	0.15	10.0
⑥	>100000	30	0.14	5.0
⑦	>100000	50	0.16	12.0
⑧	>100000	0	0.15	8.0
⑩	>100000	0	0.14	7.0



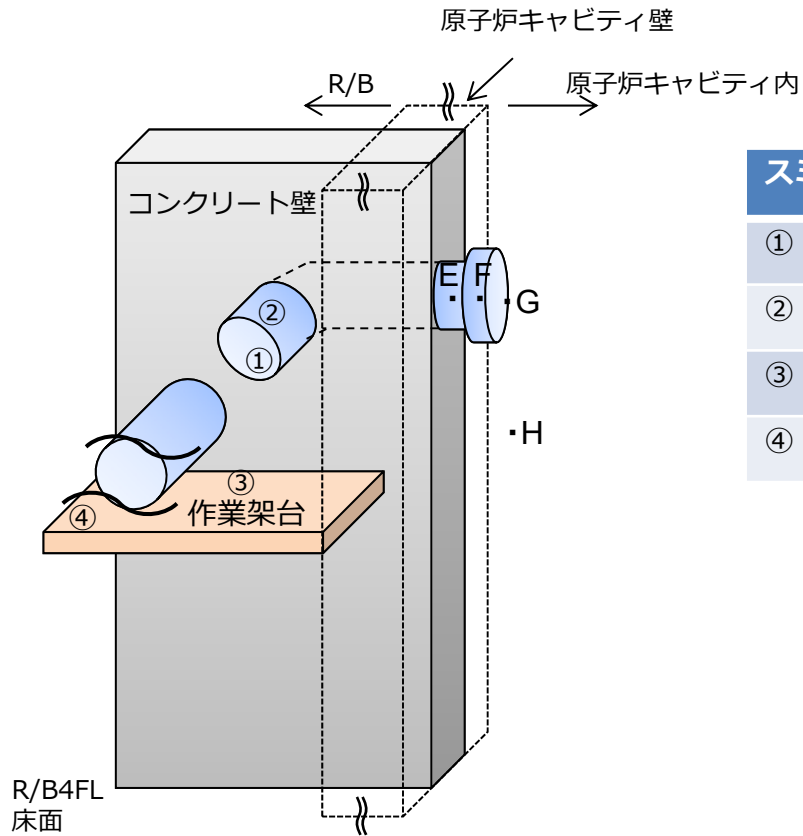
(参考) 1号機中段プラグ下線量測定結果

- 測定位置 (①~⑤) において、下段のプラグやガレキに接触しない範囲で線量計を吊下げて100mm毎に空間線量率を測定。
- 線量測定の結果、各測定位置共に、中段プラグより下側で高くなる傾向を確認。



2019年8月29日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議
「1号機 原子炉建屋 SFP内干渉物調査及びウエルプラグ調査について」より抜粋

(参考) 1号機原子炉キャビティ差圧調整ラインのスミア・線量測定結果 TEPCO



原子炉キャビティ差圧調整ライン
のスミア採取・線量測定箇所

スミア結果 (Bq/cm²)

スミア箇所	α放出核種	B+γ放出核種	備考
①	1.1×10	1.8×10^2	配管内面(切断部近傍)
②	3.5×10	$> 2.6 \times 10^2$	配管内面(エルボ部近傍)
③	検出限界値未満	$> 2.6 \times 10^2$	作業架台床面(配管直下)
④	検出限界値未満	$> 2.6 \times 10^2$	作業架台床面

配管出口部周辺線量測定結果

測定箇所	線量測定値 [mSv/h]	備考
E	400	配管出口より10cm内部
F	700	配管出口より10cm内部
G	1100	配管出口
H	2600	配管出口下50cm